

2025 年 10 月 24 日

fAGRI@JSU シンポジウム趣旨

現在、二酸化炭素を始めとする温暖化ガス量が急激に上昇し、これにより、地球温暖化も加速度的に進んでいます。地球温暖化は、高温化だけではなく、大規模な洪水や早魃など災害の要因となっているとも考えられていて、主要作物の生産に大きな影響を与えています。実際、2023 年の大雨・洪水、それに続く高温・早魃により、新潟県、山形県や秋田県では一等米の割合が極端に減少するなどの大きな被害が出たことは記憶に新しいことです。

今後、地球の気候変動はますます顕著となると予想される中で、農業に関わる世界中の研究者は、将来の気候変動を見据え、自国の主要作物の品種開発や栽培技術の革新を進めています。日本においては、まず根幹の作物であるイネでの、気候変動に対応した品種の開発、さらには稲作の栽培体系の見直し・技術開発が必須です。一方で、今後、就農者の減少と高齢化などが極限近くまで進行し、主要稲作地の日本海側で稲の収穫量が大幅に減少することが危惧されています。

このような中で、気候変動や少子高齢化を念頭に、それに対応した未来農業の研究／教育を共同で行うため、日本の米どころである日本海側に位置する 5 大学に東京大学を加えた組織（福井県立大学：岩崎学長、石川県立大学：宮川学長、秋田県立大学：福田学長、新潟大学農学部：西海農学部長、山形大学：渡部農学部、東京大学：堤元副学長／元農学部長）、『未来農業イノベーションのための日本海側大学アライアンス fAGRI@JSU』を立ち上げました。ここでは、未来の稲作に向けた課題を共有し、将来の共同研究の準備を進めています。その活動の一環として、未来に向けた稲作生産革新の取組みを広く社会に知ってもらい、社会と一緒にこの改革を進めようと、本シンポジウムを行うこととしました。このシンポジウムでは、未来の稲作をテーマに、fAGRI@JSU メンバーに限らず、広く講演者を集め、日本海側の稲作を取り巻く状況や課題、未来農業に向けた技術開発について講演することとしています。また、この講演ののちにパネルディスカッションを行います。なお、本シンポジウムは対面とオンラインのハイブリッドで行います。将来の日本の農業に危惧あるいは関心をもっている皆様にお集まりあるいは視聴いただき、日本の農業の根幹をなす稲作の将来について一緒に議論をしたいと考えています。

福井県立大学長 岩崎行玄

石川県立大学長 宮川 恒

新潟大学農学部長 西海理之

山形大学農学部長 渡部 徹

東京大学特命教授 堤 伸浩

秋田県立大学長 福田裕穂（代表）

日本の 食料を 支える

日時 2025 **12/8** 月 13:00~17:00

会場 東京大学 中島董一郎記念ホール
<https://www.a.u-tokyo.ac.jp/nakashima/>

対面とオンラインによるハイブリッド開催

13:00 開 会

主催者代表あいさつ／福田 裕穂 秋田県立大学理事長・学長

- 植野 栄治 北陸農業の課題と政策の展開方向
北陸農政局長
- 三浦孝太郎 さらに猛暑に耐える高温耐性イネ育成の取り組み
福井県立大学教授
- 古畑 昌巳 農研機構(NARO)方式乾田直播栽培—技術開発および普及展開について—
農研機構企画戦略本部 セグメントII 理事室 室長
- 郭 威 リモートセンシングとAIを活用したスマート農業技術の展開
東京大学准教授
- パネルディスカッション (植野・古畑・宮川・長濱・堤・福田他)

17:00 閉 会

日本海側稲作生産の
革新に向けて

東京大学
中島董一郎記念ホール



会場案内

申込は
こちらから



申込フォーム

